

## 平成27年度 在宅歯科医療・口腔保健研修会

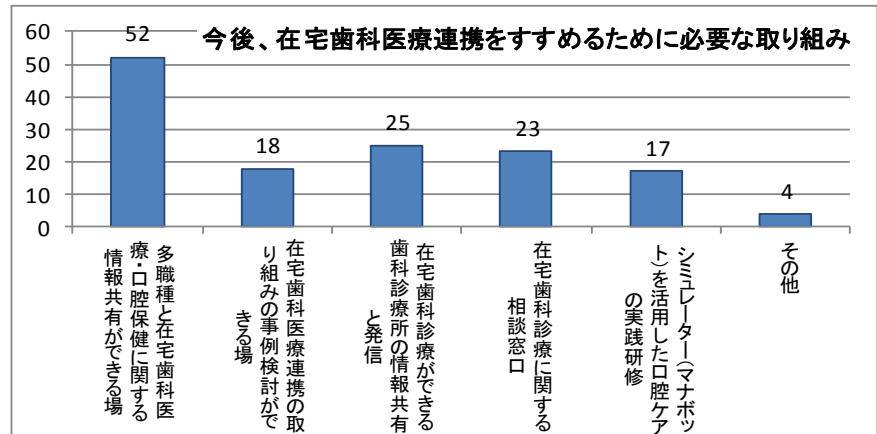
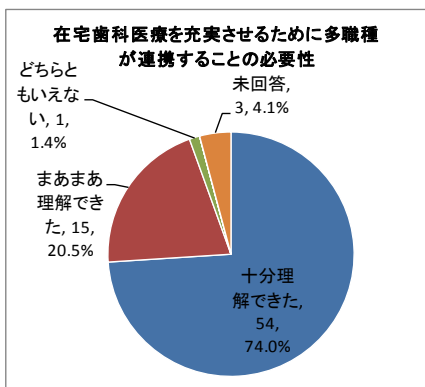
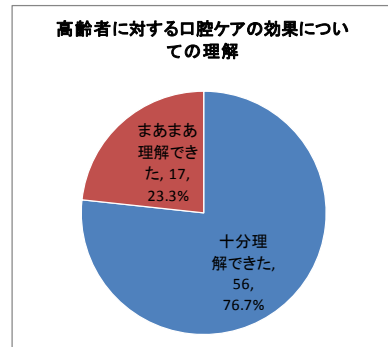
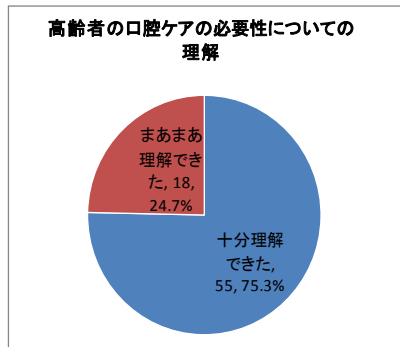
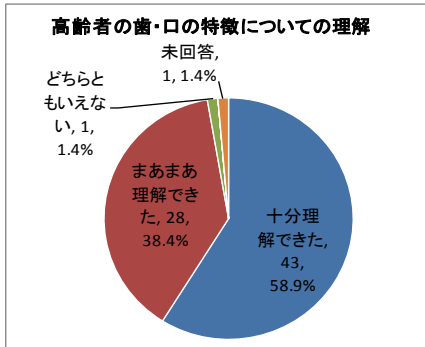
### 目的

県では、「なら歯と口腔の健康づくり計画」を策定し、歯と口腔の健康を保ち生涯を通じて自分の歯でしっかり噛んで食事をすることは、健康長寿を延ばすための取り組みとして重要であるとしている。

そこで、歯と口腔の健康づくりを推進するための社会環境整備として、地域で高齢者介護に関わる関係職種に口腔保健の重要性をわかりやすく情報提供することで、多職種による在宅歯科医療を検討し、安心して療養できる環境づくりを行うことを目的とする。

### 内容

対象者	管内医師、歯科医師、訪問看護師、地域包括支援センター等介護保険関係職員、居宅介護支援事業所・高齢者福祉施設職員、市町村関係職員、栄養士、歯科衛生士等
日時	平成28年3月10日(木) 13:30~16:30
開催場所	リサイクル館かしはら 研修室A,B(橿原市竹田町1-1)
内容	<p>1 あいさつ 中和保健所 所長 山田 全啓</p> <p>2 情報提供 「在宅歯科医療連携に関する保健所の取り組みとアンケート調査結果について」</p> <p>中和保健所 和家佐、井伊</p> <p>3 報告① 「奈良県歯科医師会の取り組みについて」 報告者 奈良県歯科医師会 常務理事 花岡靖浩 氏</p> <p>4 報告② 「地域における在宅歯科医療のこれまでの取り組みとこれからの方向性」 報告者 特定非営利活動法人 オーラルヘルスプロモーションクラブ 奈良 副代表 正田 晨夫 氏</p> <p>5 講演 「歯科から見た地域包括ケアシステム構築について顔の見える関係とは～連携はお互いを知ることから始まる～」 講師 和歌山県田辺西牟婁歯科医師会 会長 和歌山県介護支援専門員協会 会長 初山昌平 氏</p> <p>6 質疑応答</p> <p>7 まとめ・閉会挨拶 中和保健所 所長 山田 全啓</p>
参加者	96人(スタッフ含む) 介護支援専門員、介護職、介護福祉士、看護師、管理栄養士、ケアワーカー、相談員、歯科医師、歯科衛生士、歯科助手、施設管理者、保健師、行政 等
評価	<p>・参加者アンケートの結果、高齢者の歯・口の特徴について「理解できた」「まあまあ理解できた」が97.3%、高齢者の口腔ケアの必要性、効果について「理解できた」「まあまあ理解できた」が100%、在宅歯科医療を充実させるために、各職種が連携することの必要性について「理解できた」「まあまあ理解できた」が94.5%、心に残ったキーワードについては、「多職種連携」「命を守るケア」「口腔ケア」「顔の見える関係」「少し認知症かなと思ったら歯科受診」の順に多かった。今後、地域で在宅歯科医療連携をすすめるために必要な取り組みは「多職種を在宅歯科医療・口腔保健に関する情報共有ができる場」が70%を占めた。研修会の目標であった高齢者の口腔の特徴、口腔ケアの必要性、効果について理解でき、今後取り組むべき内容を考えることができた。</p> <p>・今後は、必要な取り組みとして意見の多かった「多職種と情報共有できる場」を設定し、歯科医師会と連携し「在宅歯科診療ができる歯科診療所の情報共有と発信」を行っていく必要がある。</p>



**その他の意見**

- ・各地域でのDHステーションの実現に向けた協議会
- ・最後に質問は？と言われたので、口腔体操などをお願いしたいと思っていましたが、発言できなくてすみません。介護職等に口腔機能維持のためにあいうべ体操、誤嚥にナラん！体操等を取り入れてほしい。
- ・顔の見える関係性、ケースを通じてお互いの関係性を深める事
- ・年齢層によって歯科診療は怖い、痛い（子どもの頃の痛い、怖い（PTSD）記憶が大きい）治療時間が短く何回も受診させられるなどと、面倒（意欲低下する）がられる方が非常に多いので、個人個人にイメージを変えていただけるアプローチが必要。（マスクで先生の笑顔が見えない、最近の歯科は親切、やさしいと。）自分のかかりつけ歯科（DH）がなんでもみてくれるという安心感。本日、開催ありがとうございました。

**今後、ご自身で取り組める内容**

- ・本人に口腔ケアの必要性を分かりやすく説明し、「口の健康」という意識をもって頂けるように声を掛けていく
- ・地域ケア会議の参加
- ・訪問診療などでの口腔ケアの大切さを色々な職種の方に伝える。訪問できる DH を増やす様に努力する。
- ・自信を持って活動できるよう、まずしっかり勉強
- ・介護者の方には口腔ケア、自立できる方にはブラッシング指導をしていこうと思います。
- ・食支援の学習と実施・広報、口腔ケア
- ・各講習会への参加と実習への協力
- ・介護、リハビリステーションに歯科衛生士を在中させる事
- ・「食」の力が低下してきた時に、口腔・歯科の問題があるのではないかと疑いを持ち、歯科診療につないでゆくことも必要だろうと思う
- ・歯科医師の方はなかなか声がかけづらく、門前払いがあるのも事実です。少し気になる所がある時、診にだけ来てくれるよう働きかけたいと思います（治療の要請に関わらず、原因を追究してほしい）
- ・利用者への周知、連携をとる努力

- ・施設運営の中で積極的口腔ケアを取り入れたい
- ・口腔加算に役立てる
- ・在宅の利用者様に口腔ケアの必要性を説明していきたい
- ・訪問歯科診療が必要な方に歯科医師の相談をすることができる
- ・介護口腔ケア推進士を取りたいです
- ・口腔内点検
- ・口腔のケアの大切さを高齢者へ伝えていく事
- ・訪問時に歯みがきの重要性や入れ歯の使用をすすめていく
- ・口腔内の清潔、ケア
- ・自施設でも口腔ケアを考える時間を設けようと思います
- ・他職種の方とのコミュニケーション
- ・ケアプランの中に積極的に口腔ケアをもっと取り入れたい
- ・介護口腔ケア推進士に興味が出た。勉強していく+自施設でもすすめてみたい
- ・認知症の方の口腔→歯科医への早期受診について
- ・飲み会、口腔のケアの検討
- ・ケアプランの見直し、口腔ケアの必要性を伝える、訪問時のチェックと多職種との連携を細やかに行う
- ・口腔ケア時に口腔内のケガなどのかんさつ
- ・利用者への情報提供、受診のうながし
- ・デイ勤務。最近、食事をとらない（介助時口を開けない）方がおられ、どうすればと考えていたが、食事前（口腔体操はしているが）その方に声かけし、二言三言でも声を出してもらってから食事声かけをしようと思う
- ・利用者の口腔内を確認し、ケアにつなげる
- ・介護施設において、口腔アセスメントによって浮き上がるささいな症状、主訴を放置する危険を理解できるように説明し、本人様にも意識して頂き、予防の為の歯科健診も今まで以上にすすめる。
- ・要支援の状態の方の口腔ケアの重要性を再認識した。認知症になる前に歯科治療を勧めたいと思います。
- ・歯科医師との連携を図るため、まず相談します。歯科医師会に。
- ・まずは利用者様の口の中を見ること。ありがとうございました。和歌山の久度山の出身です。和歌山やっぱりすばらしいです。
- ・在宅歯科医療の相談